

EUR / USD ユーロドル 月次レポート

前月振り返りと2026年10月の相場展望

発行日

October 1, 2026

対象期間

9月実績 / 10月展望

通貨ペア

EUR / USD

発行頻度

Monthly

9月末レート（終値）

1.13288

-2.48%（9月月間騰落率）

9月高値

1.16539

9月安値

1.13116

ECB金利

2.50%

FED金利

3.75-4.00%

今月のハイライト

9月は1.16164でスタートし、1.13288で引け、月間-2.48%のユーロ安・ドル高となった

FOMCは9/15-16に政策金利を3.75%-4.00%へ0.25%引き上げ（賛成12対反対0）。2023年の利上げ以来となる利上げで、ドットプロットは年内追加利上げを示唆しドルを支えた

ECBは9/10に預金金利を2.50%へ0.25%引き上げ。ユーロも下支えされたが、Fedの利上げとドットプロットのタカ派色がドル高をもたらした

Fedが0.25%利上げ、ECBが0.25%利上げとなる中で、Fedのタカ派ドットプロット（年内追加利上げ余地を示唆）がドル優位の展開につながったとみられる

10月 基本シナリオ レンジ

1.120 - 1.145

ECB・Fedとも次回は10月下旬。追加利上げ観測と米欧インフレ指標が焦点

米欧政策金利差

1.50pp

Fed上限4.00%とECB預金金利2.50%の差（上限ベース）。計算上の単純比較で為替の方向を保証するものではない

始値

1.16164

9月最初の取引日

高値

1.16539

月中最高値

安値

1.13116

月中最安値

月間騰落

-2.48%

-0.02876

9月の相場動向

9月のユーロドルは**1.16164**でスタートした。9/10のECB理事会では預金金利が2.50%へ引き上げられ、ユーロが下支えされる場面もあったが、9/15-16のFOMCで政策金利が3.75%–4.00%へ引き上げられ、さらにドットプロットで年内追加利上げ余地が示されると、ドル買いが加速した。

月中安値は**1.13116**まで下落する場面があった。Fedの利上げ（3.75%–4.00%）とECBの利上げ（預金金利2.50%）を比べると米側の政策金利水準が高く、計算上の金利差（Fed上限4.00%とECB預金金利2.50%の差）は1.50ppとなった。月末は**1.13288**で引け、**月間-2.48%**のユーロ安・ドル高となった。

主要イベントの影響

EU ECB 9月10日 利上げ

3金利を0.25%引き上げ、預金金利は2.50%へ（主要リファイ2.65%、限界貸出2.90%）

中東情勢に伴うエネルギー高でインフレがターゲットを大幅に上回るとして引き締め継続

ラガルド総裁は特定の利上げ経路にコミットせず、データ次第のアプローチを維持

US FOMC 9月15～16日 利上げ

全会一致（賛成12対反対0）で政策金利を3.75%–

4.00%へ0.25%引き上げ。2023年の利上げ以来となる利上げ

ドットプロットで2026年末の政策金利中央値は4.1%と示され、年内にさらに1回の利上げ余地を示唆

Warsh議長はインフレは依然高すぎると述べ、「物価安定を実現する」と明言。次回会合は10/27-28（結果発表は10/29）

9月の総括

9月はECB・Fedがともに0.25%の利上げを実施したが、Fedのドットプロットが年内追加利上げ余地を示すタカ派の内容だったことがドル高をもたらし、ユーロドルは月間-2.48%と下落した。計算上の米欧金利差（Fed上限4.00%とECB預金金利2.50%の差）は1.50ppで米側が優位な状況が続いている。10月はECB・Fedともに次回会合（ECBは10/29、Fedは10/28）を控えており、米欧のインフレ指標が方向性を見極める上での主な材料となる。

10月の注目ポイント

10月はFedの次回会合（10/27-28）とECBの次回会合（10/29）が相次ぐ。Fedのドットプロットでは年内追加利上げの余地が示されており、米インフレ指標（CPI等）が上振れすれば10月FOMCでの利上げ観測が強まる可能性がある。ECBもデータ次第のアプローチを維持しており、追加利上げの余地が意識される。市場ではECBとFedの追加利上げ余地が意識されており、どちらがよりタカ派な姿勢を示すかが方向性を見極める材料となる。

シナリオ別レンジ予測

 ユーロ強気	25%	ECBが追加利上げ、またはFedが慎重姿勢でユーロ反発	1.135 – 1.155
 基本	50%	ECB・Fedともに市場予想の範囲内でレンジ推移	1.120 – 1.145
 ユーロ弱気	25%	Fedが積極的な追加利上げ姿勢を維持し、ドル高継続	1.105 – 1.130

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
Fedの追加利上げ（10/28）	中	ユーロ安	ドットプロット通りに追加利上げとなればドル高・ユーロ安要因となりうる
ECBの追加利上げ観測	中	ユーロ高	中東情勢によるエネルギー高が続けばECBの追加引き締め観測がユーロを支える可能性
米インフレ指標の上振れ	中	ユーロ安	CPI等が上振れすればFedの追加利上げ観測が強まりドル高圧力
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの引き締め余地が後退しユーロ売りに

10月の見通し

基本シナリオは**1.120～1.145のレンジ**とみている。計算上の米欧金利差（Fed上限4.00%とECB預金金利2.50%の差）は1.50ppで米側が優位な状況が続いており、上値では戻り売りも意識されやすい。10月のFOMC・ECB会合を前に、米欧のインフレ指標のサプライズに注意が必要な月となりやすい。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。9/15-16に3.75%→4.00%へ利上げ（賛成12対反対0）。ドットプロットで年内追加利上げ余地を示唆。次回10/28。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する基準金利。Fed上限4.00%とECB預金金利2.50%の差は計算上の単純比較で1.50pp（為替の方向を保証するものではない）。

HICP

ユーロ圏の消費者物価指数。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。ユーロスタット（Eurostat）が発表する速報値・確報値があり、数値は改定されることがある。

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏21カ国の中央銀行。9/10に預金金利を2.50%へ引き上げ。データ次第のアプローチを維持。次回は10/29-30（展望レポート公表回）。

SEP / ドットプロット

FOMCが四半期ごとに公表する経済見通し（Summary of Economic Projections）。9月版で2026年末の政策金利中央値は4.1%と示された。

フォワードガイダンス

中央銀行が将来の政策方針を事前に示す情報発信。足元のFed執行部はフォワードガイダンスについて慎重なスタンスとされている。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時には最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。